

## 第 29 回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部員会議 議事概要

日時：2021 年 8 月 26 日（木）午前 10 時から午前 11 時まで

場所：愛知県議会議事堂 5 階 大会議室

### 1 挨拶

#### 大村知事：

本日は第 29 回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部員会議にご出席をいただき、感謝する。

愛知県では、第 5 波による感染再拡大を防止するために、8 月 8 日からまん延防止等重点措置で感染防止対策の徹底をしているところであるが、昨日、国から愛知県も対象に緊急事態宣言を発出することが決定された。適用は明日からである。

緊急事態宣言に基づく緊急事態措置について説明をし、御意見をいただくため、この会議を本日開催させていただいた。何卒、よろしくお願い申し上げます。

新規陽性者数については、昨日時点では 1,815 人であったが、再感染 4 人のため 1,811 人としており、新規陽性者は過去最多を連日更新している。本日も、その水準ではないかと考えており、大変厳しい状況が続いている。

昨日夜、菅総理が会見で、出口がはっきり見え始めていると言っていたが、全くそう思わない。まさに暴風雨の真ただ中で、先が見えないというのが今の状況ではないかと思う。

各保健所で頑張っていたいただいている方には、本当に苦勞をかけているが、県民・市民の命と健康を守るため、何卒引き続きのご奮闘、ご精勵をお願い申し上げます。

また、現場で日々、昼夜を問わず頑張っていたいただいている医療関係者の方には改めて感謝を申し上げたい。何卒、今後ともよろしくお願い申し上げます。

後ほど感染状況等も申し上げますが、今日時点での入院患者は昨日より 3 人増えて 748 人で、まだステージⅢである。

しかし、1,800 人台の感染が続くため、増えていくことは間違いない。重症者が 42 人で、入院患者の病床使用率が 46.1%、重症病床の使用率が 24.7%、自宅療養者が昨日から 1,050 人増えて 10,394 人となり、危機的な状況である。

第 5 波の特徴は、30 歳代以下が 7 割近く、95%以上が軽症・無症状であるが、これだけ患者が増えてくると、入院患者で、重症になる方も増えてくる。

自宅療養者が 1 万人ということは大変リスクが大きい。

昨日、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れていただいている医療機関に対し、確保病床のうち、直ちに受け入れられる即応病床は 85%、重症病床は 100%確保をお願いしたいと通知を出した。併せて、これから 2 か月間程度は、急を要さない治療や、延期ができる手術は延期をしていただきたいとお願いした。

更に病床がひっ迫すれば、更に確保病床を増やすことになると思うが、そういった状況にあるということをお伝えしたい。

併せて、宿泊療養施設についてはこれまで 3 施設で 1,100 室であったが、今週、名古屋駅の西口の R & B ホテルにて 262 室を確保した。来週、三河安城の東横インで 143 室を開けて、約 1,500 室になる。

ワクチン接種については、今月末からは県が調整しワクチンを必ず供給するため、まず 1 回目を打っていただきたいという通知を出させていただいた。県が開設する大規模接種会場では、毎日 8,000 人以上接種しており、順調に進んでいる。

千葉県で、感染した妊婦の方が入院できず、早産により子供が亡くなるという大変痛ましい事案があった。それも踏まえて、23 日から県の大規模接種会場では、妊婦は予約なしで来ても直ちに打てると案内したところ、月曜から水曜で、698 人来ていただいている。妊婦が 459 人、パートナーが 239 人である。アナウンスの効果が出ており、昨日だけで 425 人である。可能な限り対応したい。

9 月からは新学期が始まるが、デルタ株は若い 10 代に感染が広がっていることから、中学生、高校生に集団接種するため、まずは父兄同伴がいない高校生について検討している。高校 3 年生から希望者を募り、近場の病院と結びつけて、県がバスを用意し放課後に接種をしてもらう。上級学年から順に接種を進め、中学生もそういった形でやれるように検討していきたい。

愛知県内の高校生は、公立・私立・教職員を入れると 20 万人おり、これらの方に接種を進めれば相当効いてくると思うため、一気に進めたい。ワクチンがあり、進めていきたいと考えているため、よろしくお願い申し上げたい。

課題が多く、日々対応しているが、一番大変であるのは現場で頑張っている医療関係者や保健所の皆様である。今日も、今の状況では、過去最多を更新する雰囲気、今が一番大変な時であり、全く先が見えていない。

この厳しい状況を、皆様と乗り切っていきたい。よろしく願います。

## 2 議題（1）新型コロナウイルス感染症対策について

大村知事：

先週国に要請をさせていただき、昨日、国から愛知県に緊急事態宣言が発出さ

れた。

それを受けて、県が緊急事態措置を作って発出をし、明日から発動する。

資料1は、昨日付けで県民・事業者の皆様メッセージを出させていただいたものである。8月27日から9月12日までの17日間、感染防止対策の徹底を引き続き、お願い申し上げる。

資料2は、今回の緊急事態措置の概要である。本日まではまん延防止等重点措置であり、当初は12の市町村であったが、39の市町に拡大している。人口カバー率は82%であったが、緊急事態宣言になると全域となる。また、お願いとして、飲食店等に対する営業時間の短縮要請と感染防止対策で、飲食店と大規模商業施設については、20時までの営業時間短縮をお願いする。

お酒の提供は、愛知県全域で終日やめていただき、百貨店等の地下の店舗には、入場制限をしていただく。また、テレワークの徹底で出勤者数の7割削減や、イベントは50%、5千人のアップパーをお願いする。

また、この会議の終了後、本日付けで教育委員会から学校関係者と市町村の教育委員会に通知を出し、時差登校、分散登校を積極的に行っていただく。オンラインの学習支援や、部活動は校内のみで、練習試合や合宿はなしで、公式戦は、全国大会の予選県大会が行われている時期であるが、慎重に行っていただく。土日は部活を行わず平日は4日間で行っていただき、活動時間は1日90分ということで、通知をする。修学旅行等の宿泊を伴う校外行事は、この期間中は中止又は延期をお願いする。

パラリンピック開催地への移動の自粛、パブリックビューイング等の自粛。

県の取組としてワクチン接種の促進、飲食店への見回り強化、第三者認証制度の取得促進等が記載されている。

これが緊急事態措置の内容である。残りの資料については、時間があればご覧いただきたい。

参考資料2は、愛知県のワクチン接種の状況であり、一般接種のうち65歳以上の方については、1回目接種の接種率が90%を越え、2回目接種も88.5%であるため、ほぼ打ち終わっている。60歳以上もほぼ接種しているため、課題は50歳代以下の特に20代、30代の若者をどう打っていくかである。

今現在、職域接種も含めた12歳以上の対象者の接種率は63%であるが、職域接種は未だVRSへの入力がない数字が結構あると聞いているため、実際は65%を超えていると思っている。更に接種を進めていきたい。

参考資料3は、R&Bホテル名古屋新幹線口のオープンについてである。

参考資料4は、8月31日から東横INN三河安城のオープンについてである。

参考資料5は、県の大規模集団接種会場の開設期間延長についてであり、国からモデルナワクチンの供給を行う案内があったため、9月末までとしていた開

設期間を11月下旬まで延期する。

参考資料6は、妊婦に対するワクチン接種についてであり、予約なしで接種していただく通知である。

参考資料7は、医療機関の皆様へ昨日発出した、病床確保のお願いをする文書である。

これらの対策を講じさせていただいている。

#### (有識者・関係団体、政令市・中核市意見)

#### 医療専門部会 長谷川部会長：

新型コロナウイルス感染症は新しい局面に入った。これまでのインフルエンザの経験とは異なり、波は幾重にもなり、波を重ねる度に大きくなっている。

原因は、ウイルスが次々と変異していることで、従来株では1人から3人にうつると言われているが、デルタ株は1人から7人に感染する。

デルタ株前のアルファ株までは、ワクチン接種者への感染はほとんどなく、ワクチン接種で病院のクラスターがなくなると認識していたが、大きな誤算で、デルタ株になってから、ワクチン接種に関係なく感染が発生している。病院では、新しいクラスターの危機にさらされていると認識している。

幸いなことに、ワクチン接種者はほとんど症状がないか、軽い症状であるが、逆に、知らないうちに感染を拡大させている大きな要因であり、感染制御が本当に難しい状況になっていることをご理解いただきたい。感染者数を下げするには、人流抑制と、検査を増やすことが重要である。

PCR検査や抗原検査のどちらでも、より多くの方が自由にアクセスでき、感染の兆候を先取りして把握していくということが必要である。そうしないとなかなかピークアウトの状況に持ち込めないと思う。

特に若い世代は、医療機関へあまりアクセスされないため、体調が少しおかしいくらいでは検査に行かないと思うが、そういう方達が、少しおかしいと思ったら気軽に検査できる体制が必要である。

医療現場では、高齢者の重症者は本当に少なくなっている。ワクチン接種をされた方は、重症化や入院はほとんどないため、より多くの方のワクチン接種が重要である。一方、ワクチン非接種者の重症化は、若い世代の割合は高齢者より圧倒的に少ないが、一定の割合で必ず発症する。現在の感染者数の急激な増加によって、現場では急速に状況が変わっている。

医療機関では効率的な病床運用が重要であり、特に症状のピークを超えた方が、酸素不要になった時に速やかに宿泊施設へ移動できる体制の整備を医療機

関に促し、1人でも多くの酸素を必要としている方が病室を使える形にした  
い。

愛知県の感染者数の急増は、昨日の東京が明日の愛知という状況となっ  
ているため、県民の皆様には感染状況をご理解いただき、死亡者を出さないた  
めにも、感染抑制にご協力をお願いしたい。

本当に、感染が速く広がっていくデルタ株の恐ろしさを身に染みて感じ  
ている。ぜひ感染対策、制御にご協力いただきたい。

#### **大村知事：**

この感染の急拡大は、本当に新しい局面に入ったと言わざるをえず、何と  
しても抑えていきたい。人流抑制と合わせて、ワクチン接種を加速化して  
いく。引き続きよろしくをお願いしたい。

#### **愛知県医師会 柵木会長：**

8月8日にまん延防止等重点措置を出して、わずか3週間で緊急事態宣言  
となったが、これは予想どおりの結果だと思っている。前回緊急事態宣言  
を出して効果があったか、関東圏の感染拡大を見るとその効果はだんだん  
弱くなっていることは間違いない。

人流は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置では抑えられないことを  
実感している。確実な効果があるのはワクチン接種であり、できるだけ早  
く、多くの方にワクチン接種をしていただく必要がある。この後、県下  
の医師会長と協議会を開催して、ワクチン接種のスピードを上げる対策  
を議論する予定である。

千葉県の妊婦で、新型コロナに感染したが入院治療ができずに、死産  
になったという痛ましい事件が起きた。愛知県での年間出生数は令和元  
年では5万7千人であり、県内の妊婦の人数を計算すると、約4万人  
である。この4万人の感染確率を考えると、毎日10人は感染者が出  
ている計算になる。妊娠初期や中期は自宅療養でよいと思うが、後  
期になると必ず入院、場合によっては分娩間際になると思う。普通  
の分娩方法がとれないこともあるため、ここの対策を今一度しっかり  
行う必要がある。この事件以来、明らかに妊婦たちのワクチン接  
種に対する意識が変わってきている。現場でワクチン接種を行って  
いると、今まではためらっていた方も、今は積極的に打つようになって  
いることを実感している。

いち早く、大規模接種会場で妊婦とそのパートナーを優先接種の  
対象にいただいた知事の英断に、本当に心より感謝を申し上げたい。

これからの医療のひっ迫は避けられず、病床をできるだけ整備して回転率を上げることが必要である。愛知県でも自宅療養者が1万人を超えており、病床確保が重要である。

国と東京都が都内の全医療機関に対して、病床確保を要請したという報道がある。しかし、全ての病院が新型コロナウイルス患者を受けるとするのは明らかに非現実的であり、実効性はない。愛知県では、設備が備わりマンパワーがあつて、治療実績がある公立病院を中心に、日常医療をある程度止めても新型コロナウイルス感染症患者を診るように強く要請するべきである。その代わり、病院ごとに、治療の必要性に応じた役割分担をする必要がある。

そして、東京や大阪で開設されている酸素ステーションも今のうちに用意する必要がある。公立病院は、新型コロナウイルス感染症患者の診療やワクチン接種に多くの人手を取られている。

医師会には、JMATという医師会の災害医療チームのシステムがあり、これを活用して、酸素ステーションの医師派遣や運営を積極的に行っていきたいと準備を進めている。医療界の全力を挙げて新型コロナウイルス感染症に立ち向かいたい。

#### **大村知事：**

病床確保について、今後患者が増えるのは間違いないため、増床・役割分担も含めて相談をしていきたい。

酸素ステーションについても、具体的に今準備を進めている。特にオペレーション・運営が重要であるので、相談をさせていただきたい。

妊婦については、実際、現在どれぐらいワクチン接種がされているか。半分ぐらい接種されているか。

#### **愛知県医師会 柵木会長：**

まだ半分も接種していない。

#### **大村知事：**

バンテリンドームナゴヤは1日800人の接種ができるが、昨日は妊婦が約120人接種した。空港ビルでは約150人接種した。引き続き、しっかりと進めていきたい。

妊婦に対する2回目のワクチン接種の推奨についても、よろしく願いたい。

## 愛知県病院協会 伊藤会長：

第5波に対し、病院協会及び病院団体が現状できることとしては、最大数の病床確保を行うことと、病床稼働率の向上、特に、重症者病床への対応として、新規重症患者の受入体制を更に充実させるために、各病院が病床運用をどのような形で行っているかという情報を、それぞれの病院や医療機関で共有をして、スムーズに重症患者の受入れを行うことや、効率化を図るための仕組みを組み立てることである。今後、後方支援の医療機関を効率的に運用できるような体制を早く充実させていきたい。

ただ一方で、特に重症患者への病床確保を行うため、一般病床からの転用を行うと、特に看護スタッフの集中的な人員確保が必要である。そのために、第4波で起きたような一般病床への対応が困難になることが地域によっては起こる。そうすると、医療機能を制限することも十分視野に入れ、それぞれの地域の医療機関同士を、医療の機能に応じて分担することの十分な協議が急務である。多くの医療機関は、既に全ての疾患に対して全力で取り組んでいるが、新型コロナウイルスの爆発的な感染の増大によって、これができない状況になっていることを、ぜひ県民の皆様方にご理解頂きたい。

患者の受入れについて、個々の病院の対応に任せると、すべての医療機関が共倒れになりかねないという状況が発生することを懸念している。コロナの受入れに伴う一般医療の受入れやコントロールを行うことについて、県から明示をしていただくことが必要である。地域や県民の理解を得ると同時に、地域内での医療機関同士の機能の分担を、再検討を行うことが必要な状況になっている。急がない手術の延期という話も出たが、もう少し明確に、救急の対応をどうするかについての指示をいただけると、病院団体としても動きやすいため、ぜひご検討いただきたい。

酸素ステーションの設置については、自宅療養者の急増を受け、急務であるが、指摘があったように、医療スタッフの確保が大変難しい。これに関しては、県医師会の先生方と共に、愛知県病院協会と、さらには他の病院団体の協力を得た上で、スタッフの確保に対応していく。

病床の確保及び施設の確保、更には人流の抑制を行い、何とかこの感染を収めたいと考えているが、これは我々の言うところの対症療法である。この受け身の対策でなんとか頑張っているが、既に医療の限界が来ている。こうなると、現状、唯一の根治的な療法として考えられるのはワクチン接種をいかに進めるかに尽きる。この推進については、妊婦の話があったように、何かのトピックを受けて市民や県民から反応があるため、ぜひ愛知県としても、ワクチン接種を受けることに関して強いメッセージを出して頂き、ワクチン接種の推進を行って頂きたい。

愛知県病院協会は、病床の確保と酸素ステーション及び一時滞在医療施設等を含めて全力で取り組んでいくが、根本的な対策についてはご検討頂きたい。

**大村知事：**

ワクチン接種については、県、医療機関、医療関係者が連携して、更に加速をしていきたいと思っている。

特に10代の中高生はもちろんだが、20代や30代の若者への接種の拡大をどう行うか考えると、ある程度インセンティブのようなものも視野に入れる必要があり、その工夫を含めてまたご相談をさせていただきたい。

また、地域の医療機関の機能分担や救急体制等は、大事なところで要であると考えているため、引き続きご相談をさせていただきたい。

**名古屋商工会議所 内田専務理事：**

日々全力を尽くしていただいている医療関係者、また愛知県などの関係機関の皆様に感謝を申し上げます。

全国的な感染拡大に歯止めがかからない中、今回初めて東海3県に対し、宣言が同時発令をされる。度重なる宣言などの発令で、飲食店、宿泊、観光イベント関係の事業者は、依然として先が見通せず、心がまさに折れかかっているところである。

この厳しい状況の中、事業や雇用を維持している事業者に対して、協力金の迅速な支給や金融支援など、必要があれば追加策を講じるなど、一層の支援を是非ともお願いしたい。

直近の課題は、急拡大する感染を抑制することであり、同時に、自宅療養者なども安心して治療に専念できるような十分な医療体制を整えることである。併せて、ワクチン接種はその効果を見据えた将来の希望のため、ワクチンの有効性を情報発信していただき、不安を解消していくことが重要である。

名古屋商工会議所としても、会員企業の皆様に、休暇取得の促進や、テレワークの徹底などで出勤者の抑制に努めていただくよう呼びかける。

感染収束に向け、全国民が危機感を共有する必要があるが、度重なる行動制限と解除の繰り返しに慣れて、行動変容を改めて促すことが難しくなっている。県民の皆様に、今までにない危機感を感じ取ってもらえるよう、より強力なメッセージを出していただくよう、よろしく願います。

**大村知事：**

中小企業への支援策等については、きめ細かく行いきたいと思っている。



また、ワクチンの職域接種について、毎週水曜日に愛知県内の企業、大学、団体の皆様のうち申請している方に確認をしているが、昨日時点で職域接種を始めているという返事は194件で、対象人数は87万327人である。

昨日までに約87万回接種したという報告があった。2回目接種をしたのは30万回であり、これから接種を進めていくということだが、VRSの登録をまだしていない方が多いため、恐らくもっと多いと考えており、こちらは順調に進んでいるということだと思う。しかし、申請しているのは301件で、そのうちまだ約100件が始まっていないため、早くワクチン供給があるよう、国にしっかり働きかけていきたい。引き続きよろしく願います。

#### **中部経済連合会 小川専務理事：**

改めて新規陽性者数が1,800人という数字を見て驚いているが、ご承知の通り東京都の人口と愛知県の人口を比べると約半分であるため、1,800人を2倍すると3,600人で、東京都の4,000人に驚いていられない状況にあるということを変更して考える必要があるのではないかと思います。

幸いなことに、重症者が今のところ東京都ほどではないが、明日はどうか分からない状況であり、医療保健関係の皆様が、今まで以上に非常に大変になっていくと思う。大変お疲れの中だと思うが、工夫と対策を考えながら、是非ともよろしく願いたい。今までのことに関して感謝を申し上げるとともに、さらによろしくと期待を申し上げさせていただきたい。

こうした中、私どもが出来ることは、人流を抑えることだと考えている。飲食店や、デパートの地下の食品売場に入場制限をかけるなど、相当な犠牲を払いながら進めている。何度も申し上げているが、そうした方に適切な支援をよろしく願いたいと思っている。

先日、私どもの会長と西村大臣が、テレビ会談を行った。大臣から、7割出社の抑制を行ってほしいという話があり、テレワーク等について私どもの会員に改めて周知をさせていただいた。

また、人流を抑える中で、若い層向けに、知事からも教育委員会にお話をこの後されるということで、大変心強く思っている。

また、学生に対してワクチン接種を行うということであるが、大学についてもぜひもしっかりしたメッセージを知事から願いたい。授業そのものもだが、授業が終わった後、大学生の行動が非常に活発であり、直行直帰等を大学から学生の皆様をお願いをしていただくことも必要だと思っている。

前回の会議時に、知事からすべての機関が協力し、産官学が一体となつてという話もあった。すべての社会の機関が一体となつて、今までにない最上級の緊急事態を、協力してしっかり人流を抑えるということと、ワクチン接種を進

めていくことを、今までよりさらに一段階、二段階もギヤを上げて対応していくことが必要だと思っている。

また、東海3県も社会経済的の一体であり連携をとっていただけるといいことだが、よろしく願いたい。

**大村知事：**

人流を抑える様々な対策と、ワクチン接種の加速について、経済界の各傘下の企業を含めて、働きかけを引き続きよろしく願ひ申し上げる。

また、大学及び大学生へのメッセージは大事なことであるため、どのように対応できるか考えていく。

**愛知県経営者協会 岩原専務理事：**

企業では、テレワーク等を一生懸命普及しているが、少し意見を聞くと、もともとテレワークが難しいという職場もたくさんあり、そういった場合は職場の中で感染対策を行っている。

また、テレワークを長く実施していると生産性やコミュニケーション上の問題が起き、テレワークの実施数が若干減ってきている。もう一度、緊急事態ということも踏まえて、よい事例を共有しながら、テレワーク等の参加を促していかなければならない。

また、仕事場以外であるが、お盆休みが終わった後に、いくつかの企業でかなり感染が増えてしまった事例がある。正確なデータはないが、若い人が外出をして感染したという例もあり、仕事場だけではなく、仕事後や休日も含めて、徹底をしていきたい。

特効薬・決め手となる対策はないが、粘り強く行政の出していただくメッセージと、経済会からのメッセージも含めて徹底していきたい。

**大村知事：**

現在は緊急事態であるため、私どもも更にPRを頑張っていくため、また引き続きよろしく願ひする。

**日本労働組合総連合会愛知県連合会 中島副事務局長：**

まずは医療従事者に、これまでの尽力を感謝申し上げたい。

現在の大変厳しい感染状況を踏まえれば、緊急事態宣言発出はやむを得ないと認識している。連合愛知としても感染拡大防止のため、愛知県に協力し本日の内容を加盟組合員に周知をし、今一度感染予防に努めることを徹底する。

その上で、加盟組合の方からいただいている声をお伝えする。鉄道、バス、タクシー、保険業界で働く方が、大変な状況が続いて雇用が追い込まれている。対策をとるならば、効果が出るよう、短期集中で厳しい措置を行っていただき、早期に事業が正常化できるようにしてほしいといった声も上がっている。

飲食関係で働く方からは、給付金等のタイムリーな給付を求める声がある一方で、繰り返される、このまん延防止等重点措置や緊急事態宣言に、諦めムードが漂っているというのが実態である。

また、教育関係で働く方からは、学校の休校、時差登校、オンライン授業と、自治体によって変わってくるが、学習の進捗や、取組自体の温度差が生じないように、県として指導を徹底してほしいという声が寄せられている。

今回、緊急事態宣言が発出されて大変だということは認識できるが、これまでもマスク、手指消毒、三密を回避した行動を意識している一方、仕事のために会社に公共交通機関で通勤しなくてはならないことや、食品を含めた日用品の買い物は避けられないというような声も寄せられている。

今一度、県から事業者へテレワークや時差出勤の実施について、従来以上に強い要請を行っていただき、こういったことを含めて、感染予防に向けた県民に対する強力なメッセージを発していただきたい。

#### **大村知事：**

今発言された様々な点について、また県民の皆様へのメッセージを出していきたい。また、時差出勤やテレワークを進めていくということや、学校では分散登校なども弾力的にやっていただくように通知を出しながら、個別に相談をしていきたい。

また、連合愛知にはぜひ傘下の組合員の方のうち、特に若い方にワクチン接種の推奨をお願いしたい。デルタ株のこの状況を見ると、ステージが変わってしまったと感じる。ワクチンを6割か7割が接種すれば、集団免疫が獲得できるわけではなく、9割が接種しても、まだ感染する。ワクチン接種しない限り、必ず感染リスクがあると思った方がいいため、何卒、若い方へのワクチン接種の推奨をお願い申し上げる。

#### **愛知県市長会 相津事務局長：**

期待されるワクチンの接種だが、各市も当然ながら真剣に取り組んでおり、全体としては進んできているが、妊婦や若者への優先接種などについては、より工夫をしながら効率的に推進をしていく必要がある。

課題も出てきており、直近でも助言をいただいているが、そうした助言も踏ま

えて、今後とも連携強化を図り、県全体のワクチン接種の推進向上のために、基礎自治体としての役割を十分に果たしていきたい。

**大村知事：**

ワクチン接種の加速化をよろしくお願いをしたい。ワクチンの供給は私どもが責任を持ってやらせていただく。

**愛知県町村会 宇佐見事務局長：**

人流の抑制、三密回避、マスク・消毒の徹底など、これらに加えて、ワクチン接種や検査の促進が大事である。

先週、厚生労働省が示したワクチン接種と感染者のデータによると、2回目接種後に感染する方は未接種の方に比べて約15分の1というデータが示されているが、逆に言うとワクチンを2回打っても感染者が出るのはやむを得ないということである。一方で、やはりワクチンを接種すれば、それなりのことがあるということも示されている。3回目のワクチン接種も噂されている中であるが、少なくとも、1回目の方を増やすことが大事である。

9月には新学期が始まるため、学校における今後の対応が重要である。学校における接種は、当然御両親の理解も踏まえて進めることが大事である。一方、ワクチン接種をしない、できない方への配慮もしながら、学校におけるワクチン接種が進むよう県と協力し努力していきたい。

ぜひとも助言と指導をいただきたい。

**大村知事：**

引き続き、ワクチン接種等をよろしく願います。

**名古屋市保健所 医監：**

昨日時点で、10万人当たり7日間合計で約130人であり、大変多数の陽性者が出ている。連日新記録を更新しており、まだピークが見えない状況である。現在の感染原因の多くは、お盆休みで会食やレジャーを楽しまれた家族によるもので、1年間での発生が今一番多く、今後、これらの方が次の感染を広げる可能性がある。

保健所の業務は大変ひっ迫しており、一部の一般業務を縮小する中で新型コロナウイルス対策に人員を充てて頑張っているところであるが、市民の皆様には大変なご迷惑をかけており、その点のご理解をいただきたいと考えている。

**大村知事：**

保健所等、現場も大変な状況になっていると伺っている。引き続き、様々な応援も含めて何卒よろしくお願いを申し上げます。

東京や神奈川も、保健所業務のひっ迫により、濃厚接触者は追わず検査件数が減っている。東京はこの1週間、感染者が約5,000人と発表しているが、恐らく実際は倍以上のはずであり、検査の取り漏らしが起きている。つまり、もっと多い方が検査にかからずに街中を動いており、感染拡大させていくため、極めて恐ろしい状況である。

名古屋市は、一般業務は少し制限するが、濃厚接触者は必死で追いかけているという認識でよろしいか。

**名古屋市保健所 医監：**

現在は、必死になって追いかける体制をとっているが、もしもこれ以上増えると、なかなか難しい時が来るかもしれない。

現状としては、他局からも応援をいただき、なるべく追えるところまで追いたいと考えている。

**大村知事：**

それが一番のポイントであるため、よろしくお願いたい。当初、名古屋市の感染者が去年の春は7、8割であったが、去年1年間で4割ぐらいとなり、今は全県に広がり、県所管分が名古屋市所管分より多くなっている。

どこの保健所も大変だと思うが、濃厚接触者を検査から取り逃すと大変ことになるため、引き続き、大変だと思うが何卒よろしくお願いを申し上げます。

**豊橋市保健所長：**

7月末から徐々に患者数が増加したが、8月16日から急激な患者増加が見られた。この1週間の平均患者数は90人前後で、人口10万人あたりの新規陽性者数は、130人を超えている。

年齢別では、若い世代の方が非常に多く、感染経路は家族、知人、友人だが、印象としては、1人の方に感染すると家族全員に感染を広げており、同時に感染が確認されるケースも増えているように感じる。

入院する方が少なく、自宅療養となっているため、自宅療養患者はすでに500人を超えており、毎日の健康観察も追いつかず、患者が出たときの疫学調査も追いつかない状況である。

患者の調査や健康観察が優先と考えて、保健師の業務もすでに縮減縮小している部分もあり、本庁等からの応援もいただいているが、接触者検査への対応が

難しくなっている。

一番重要である接触者検査の実施の方向性についても、県とも統一した方法等を考えて、接触者検査を行っていきたいと考えているため、ぜひご検討いただくことと、またご相談をさせていただきたい。

**大村知事：**

またよく相談しながら進めていくため、よろしくお願ひしたい。

**岡崎市保健所長：**

第5波に入り、ほとんどがインド由来のデルタ株であるが、第4波である3月29日から7月7日の約100日で新規感染者数は1,062人であったが、7月10日から8月25日の47日間は1,216人となり、半分弱の期間で、第4波の新規感染者の総数を超えている。

1日の患者数も過去最高の106人を記録している。新規感染者がこれだけ急速に増えると、保健所の積極的疫学調査や入院調整等の円滑な運用にかなり支障が出てきている。第5波のピーク時では、入院50人に対して宿泊療養施設が10人、自宅療養が308人、自宅待機が171人という状況となった。

保健所の負担が増加してきている状況が続き、急遽BCPを発動し市役所から追加の人員の応援を受けているが、大変苦しい状況になってきている。

年齢的には、10代を筆頭に20代から40代の、若者のワクチン未接種の方を中心に発病している。夏休みということもあり、大学の運動部に関連したクラスターも出ている状況である。

最も有効な手段としてのワクチン接種の推進に努めているが、患者が急増している時期に、入院医療の環境はもちろん、宿泊療養施設等の円滑な運用や、在宅療養患者支援対策についても、より支援をいただくよう、お願ひをしたい。

**大村知事：**

ワクチン接種と、医療の病床確保も含めてまたよくご相談させていただく。

**一宮市保健所長：**

4月1日から8月24日までで、陽性者は1,793人となっている。他の地域と同じように、10代と10代未満の新規陽性者が増えており約300人ということで、60代や70代の、陽性者数をはるかに上回っている。

1週間単位では、7月15日の週は、1週間の陽性者が8人まで減ったが、22日の週は35人、29日の週は64人、8月5日は113人、12日の週は258人、19日の週は273人ということで、急増している。それに伴い、保健所で唾液検査を

行っているが、7月8日の週は26件であったが、7月29日からの週では検査件数が147件、8月5日の週は226件、8月12日からの週が608件というように、唾液検査も急増している。

それに伴い、市の他部局からの応援で、疫学調査等に従事する保健師として福祉部からも応援をいただき、増員をしている。

市内の入院状況について、5月23日には73人まで入院させていただいたが、8月23日では47人で、県の調整で市外から入院される方もあり、入院については上限に近づいてきている。

自宅療養者についても、かなりの数に上っている。

#### **大村知事：**

厳しい状況が続くが、またよろしくお願いを申し上げる。

#### **豊田市保健所長：**

7月の4連休を境に陽性者が増え始めていたが、お盆を境に増加し、直近1週間の陽性者数が、人口10万人当たり150人に迫る状況になっており、7月21日からの第5波の陽性者は、昨日8月25日までの発表分で1,046人である。

現在までの全陽性者のうち約3割が直近1か月で発生しており、内訳としては男女別では男性6割、女性4割となっている。年代別では10代から40代が全体の82.6%で、20代が突出して多く36.7%で、感染経路は不明が多いが、同居者が感染することが引き続きとても多い。

既に他の保健所業務は縮小しており、全庁から多くの方を増員して頑張っているが、保健所業務は大変ひっ迫している。

ワクチン接種については、一時休止していた市の集団接種の予約を8月22日に再開しており、医療機関での個別接種、また県で実施いただく大規模接種と合わせて、できる限り早く、できる限り多く接種を行いたい。

#### **大村知事：**

大変な状況であるため、全庁的な応援を行いまたよろしくお願いをしたい。ワクチン接種の加速も何卒よろしくお願いを申し上げる。

本日いただいた意見を踏まえ、愛知県の緊急事態措置を本日の本部員会議の後に発出させていただく。

各学校、市町村、教育委員会、私学にも、学校の対応等について通知を出させていただく。

いずれにしても、デルタ株の感染力は大変恐ろしく、猛威であり、今のこの現

状をみると、第4波までの経験値を遙かに超える感染力であり、感染症とはこういうことかと、見せつけられている感がある。

100年前のスペイン風邪は、1918年から20年までの3年間で、当時全世界の人口が18億人であった時に、全世界人口の2分の1から3分の1は感染したと言われている。

当時ワクチンは無かったが、日本は欧米との生活習慣の違いもあり、そこまで感染者は増えなかったが、今回、あれだけ効果のあるワクチンを手に入れたにも関わらず、それでもこれだけ時間がかかるということは、そう簡単に出口は見えてこないと思われる。

このような厳しい状況ということ、県民や事業者の皆様へ引き続き伝えるとともに、ワクチン接種を一日も早く、一人でも多く進めていくため、全力で取り組んでいく。

今後とも、県民、市民、事業者の皆様のご理解、ご協力を何卒よろしくお願いする。引き続き、この本部会議の皆様にご協力をいただき、感染防止対策を徹底し感染症を克服し、一日も早く日常を取り戻していきたいため、何卒よろしくお願いする。